

Point of note

■ 就労継続支援とは

通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者に、就労の機会を提供し、生産活動などの機会提供を通じて、その知識や能力の向上のために必要な訓練、そのほかの厚生労働省令で定める便宜を供与すること。雇用契約を結ぶA型と、雇用契約を結ばないB型がある。障がい者がもっと「働ける社会」を目指し、意欲と能力のある障がい者が企業などで働けるよう、支援する取り組み。



就労継続支援B型事業として2015年4月にオープンした「はーとやのパン」。



近隣の福祉系大学から、新卒者も集まった。ドアツードアで利用者を自宅まで送迎。



「利用者やその家族のニーズに真摯に応えていきたいんです」

遅くとも16時30分までが主流。「でも、自宅まで送り届けるほうが家族も安心です。そこで当法人では、千葉に多い夫婦共働きの家族の希望に添えるために、預かり時間を通常より延ばす新たな取り組みにチャレンジしました」利用者やその家族がどんなことに不便を感じ、何を求めているのか、市場のニーズを読み取り、他の施設と差別化できなければ、利用者は集まらなると平井さんは言う。

STEP 2 事業スタート 利用者のニーズに合わせた 事業展開に乗り出す

2011年4月、職員6名に利用者6名でスタートしたみらい工房は、口コミで評判が広がり、2カ月後に定員の20名に達した。

「施設型は大きな初期投資が必要で、資金を集中させようとしたときに、運転資金に不安がありました。私たちの報酬は45日後支払いで、最初の2カ月は収入がありません。当時、銀行ではNPOは融資先対象ではなく、千葉市の障がい者の実情や法人の方針を説明しても、対応してもらえないのは困難だった。このときに相談に乗ってくれたのが日本政策金融公庫でした。公庫

の融資のおかげで、法人の安定運営が可能になったのです」その後、みらい工房は地域のニーズに添えるかたちで、指定特定相談支援事業や指定障がい児相談事業にも着手、15年4月には就労継続支援B型事業として、焼きたてパンとサンドイッチの店「はーとやのパン」を開業する。「最初は通所20名と児童デイサービス、グループホームを運営しながら、職員を育成し事業を広げていこうと考えていたのですが、幸運なことに実務経験者が多く集まり、計画を前倒してきました。事業の多角化は利用者求めるサービスや支援方法に添えていった結果です。「はーとやのパン」では、障がい者も健常者も関係なく、上質なものを提供し対価をいただくことを重視しています。新検見川にあるサンドイッチの人気店で3カ月間スタッフが修業し、暖簾分けのお墨付きをいただいたお店です。現在では、障がい者20名が働いています」

STEP 3 今後の展望 就労と暮らし、利用者の一生を サポートできる仕組みづくり

この「はーとやのパン」のさらなる発展とグループホームの整備が、みらい工房が抱く当面の目標だ。



会社概要

所在地：千葉県千葉市中央区生実町 1821-1
業種：福祉サービス業
設立：2011年4月
従業員数：120名

NPO法人 みらい工房

<http://www.mirai-kobo-welfare.jp/>

「地域と共にみんなの未来を創造する」を基本理念に、千葉市に設立したみらい工房。独自のサービスと利用者や家族のニーズに応えた事業展開で地域福祉に貢献している。



STEP 1 創業のきっかけ 地域や利用者のニーズに応えた 障がい者支援を実現する

「大学を卒業してから23年、障がい者に関わる仕事だけに心を傾けてきた」と、NPO法人みらい工房の理事長を務める平井晋也さんは言う。

「福祉に対する考え方は人によってさまざま。以前の職場では、地域の障がい者や家族が求めるニーズに十分添えられていないと感じることがあっても、契約の関係で実現できないことが多かった。それならば、自分の理想に近い施設をつくらうと考えたのが、法人設立のきっかけでした」

千葉市には、重度障がい児が治療入院する千葉県こども病院がある。退院後の通院や付属のリハビリセンター通所のため、県外から近隣に移り住む家族も多く、特別支援学校卒業後に継続支援が必要な障がい者も少なくない。

「まず、こうした地域のニーズに添えるべく、以前から構想していたドアツードア送迎と、17時30分までお預かりするサービスで通所型の生活介護事業所を開業。さらに成人の障がい者のグループホームの必要性を感じ、共同生活介護事業や、指定児童デイサービス事業も開始しました」

ほかの施設は、マイクロバスで集合解散地点までの送迎で、預かり時間は「グループホームは毎年1棟ずつ開設し、また公庫の融資を利用することで、法人所有のグループホームも実現できました。成人の障がい者は、夜はグループホームで、昼間は通所施設で過ごす生活スタイルですが、利用者の高齢化が進むと、グループホームは都市部にある理由はなく、もっと環境の良い場所に定住の共同生活の場を設けるのもいいのではと思っています。近くに通所施設も整備し、将来は都市型生活介護事業所とは違う定住型の施設開発も視野に入れていきます」

利用者には選ばれる施設になるためには、独自のサービスと視点が求められると平井さんは言う。「自分が提供したいサービスの需要は本当にあるか、利用者にはメリットがあるか。リサーチは重要」。みらい工房は、社会的課題を機会と捉え、事業を推進することで、今後も地域福祉に貢献していく。

Profile



NPO 法人
みらい工房
理事長
平井晋也さん

大学で福祉を学び、卒業後20年以上、千葉県内で障がい者支援・福祉の現場に携わる。その経験と人脈を活かし、利用者主体の眼差しで施設とサービスを開発。千葉、栃木で7事業所を運営。